

A-1 研究主題

1. 研究主題

自分の考えをもち、自分の言葉で表現する子

～ 国語科を基盤とした言語活動を通して ～

2. 主題設定の理由

活用力とは

昨年度、本校は「活用力推進モデル校」の指定を受けることとなった。「活用力」とは、習得した基礎的基本的な知識・技能を活用し課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等である。新学習指導要領では、どの教科等においても「活用力」の基盤となる言語能力を高めるために、また、各教科等のねらいを達成するために言語活動を充実させることが重点として挙げられている。

本校児童の実態

昨年度の全国学力・学習状況調査や日ごろの学習状況から、言語能力という視点で本校児童の実態をみると、次のようなことが言える。

- (1) 「漢字の読み書き」や「指示語、接続語等」の言語事項に関する力はおおむね良好である。
- (2) 読解を伴う記述式問題では、白紙回答が多く、自分なりに考えてみようとする意欲に課題がある。
- (3) 調べ学習などでは、集めた情報をそのまま引用しただけのレポートが多く、必要な資料を選び目的に応じて読み取り、自分なりに解釈することが苦手である。
- (4) 自分の考えを相手意識・目的意識をもってわかりやすく書いたり伝えたりする表現力が弱い。

また、学校生活全般において、指示されたことは何とかやり遂げるが自分で考えて主体的に取り組む児童が少ない。

研究主題について

本校児童は、情報を目的に応じて理解、解釈し、それを基に自分の考えをもち、その考えを筋道立てて表現するという読解力に課題があり、主体的に課題を解決しようとする意欲も低い。読解力は、現在の情報化社会において、主体的に生きていく力として最も重要な力である。活用力（思考力・判断力・表現力等）は、この「読んで、思考し、表現する」という読解の一連の過程を通して育成されると考える。これらは言語を通して行われる。つまり、活用力の基盤は言語の力であると言える。

そこで、本校では、各教科等で「読んで、思考し、表現する」という言語活動を充実させることで言語の力を高め、考えの根拠を明らかにして自分の言葉で筋道立てて説明できる子をめざし、研究主題を『自分の考えをもち、自分の言葉で表現する子』とした。そして、言語の力をつけるために、まず、言語能力の根幹を成す国語科で、「読むこと」領域を中心に「読む力」をつけることからとりかかるとした。「読む力」をつけるための授業改善を行い、教師の授業力を伸ばしていきたいと考えた。

国語科での「読む力」をつけるための授業改善とは、言語活動を通して「読み方」の基礎基本を学び、学んだことを活用する場を取り入れた単元構成を工夫した授業づくりであると共通理解して研究に取り組んだ。このような授業づくりをすることで、主体的に学び、知識・技能が実感を持った理解となり、知識・技能の習得が一層確実なものとなり、新しい課題解決に活かされると考えた。

副題について

1年間の取り組みで児童は目的意識をもって学習を進め、「読み方」を習得し、徐々にではあるが、根拠を明らかにして自分の考えを表現できるようになってきた。また、考えを交流することで、自分の考えに変容が見られ、友だちと学ぶことのよさを実感することができるようになってきた。

今年度は、国語科での実践を深めるとともに、副題を「国語科を基盤とした言語活動を通して」とし、日々のさまざまな授業の中で、国語科で培ってきた言語の力をもとに言語活動を充実することで言語能力を高め、それぞれの教科等のねらいに迫りたい。